

Mite Mite

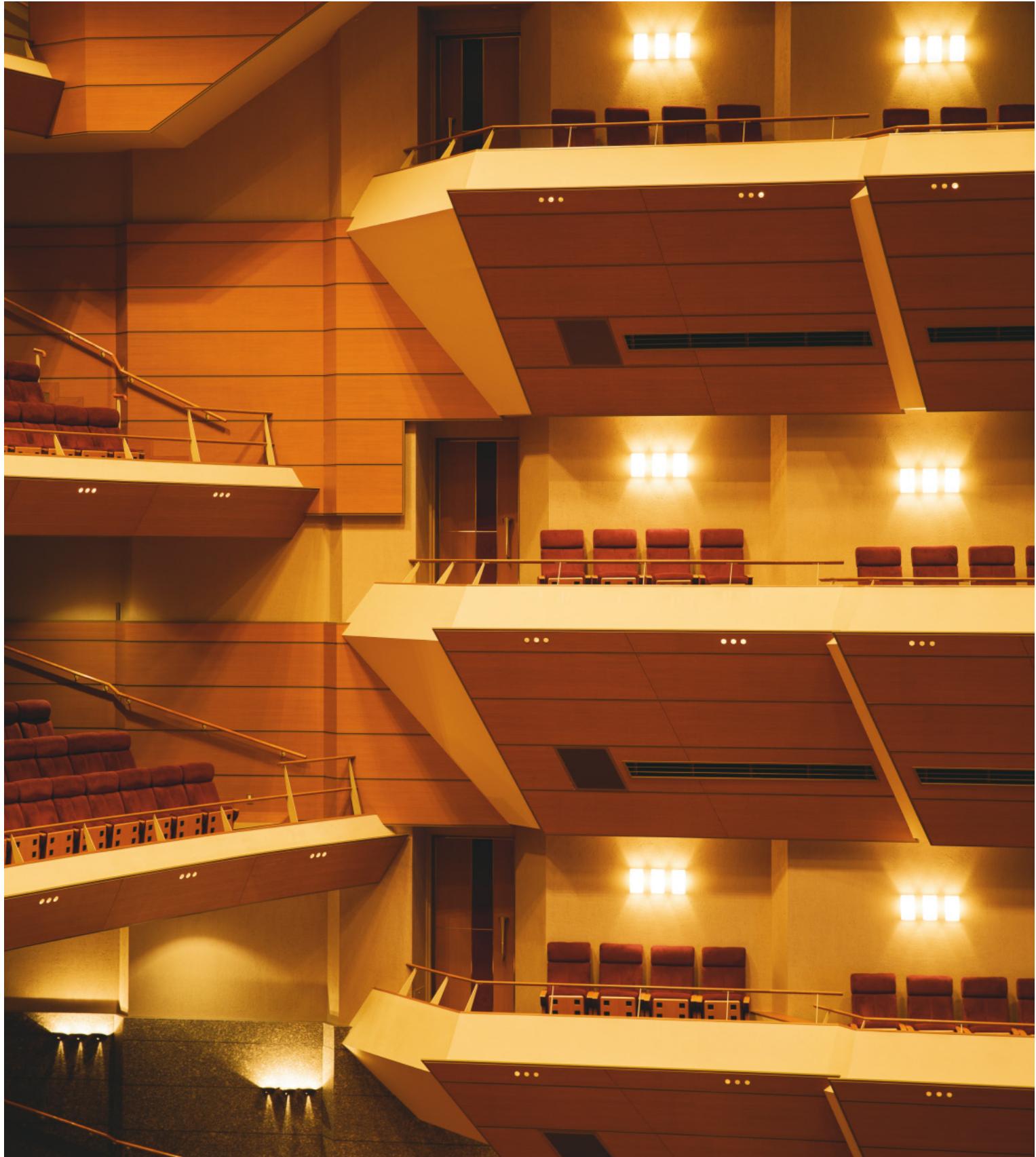
「人と、街と、劇場をつなぐ。」 オーバード・ホール情報誌

2018-autumn
VOL.

58



AUBADE HALL



月光の舞台

中秋の一夕、能楽喜多流友枝昭世師シテの「清経」の舞台を観た。八島の合戦に敗れ九州に落ちた平家の公達清経が、勢いに乗る源氏軍迫るなか、前途を悲観して入水。遺髪を携えた従者淡津の三郎(ワキ)が京に上り、宇治の里に隠れ住む清経の妻(ツレ)に届けるところから、一曲は始まる。

妻が驚き恨み、恨み寝にうたた寝する夢中シテの清経の靈が現われ、恨む妻とのやりとりののち、月美しい柳が浦の海上に小舟を漕ぎ出し、笛を吹き今様を歌い、念仏を誦えて身を投げた顛末を語り、ついに成仏したことを告げて消えていく。観ていて舞台が月光満ち満てる宇治の里になり、柳が浦の海上になり、見所にいる自分自身月光に包まれている思いがした。

そこで改めて思ったのは、能とくにその多くを占めるいわゆる複式夢幻能の後段が、月光の中で仮眠するワキまたはツレの夢にシテが現われる、いわば月光の舞台であるという事だ。考えてみれば月光の空間ほど靈が過去と現在を語り祈りを願い成仏の悦びを表現するにふさわしい空間はなく、だから鬘物「井筒」の井筒の女も、中将物「融」の融の大臣も、鬼畜物「鶴」の鶴の靈も、月光の中で舞い、月光の中で成仏するのだ。

こう見てくると、能はきわめて特殊なドラマで日本人以外には受容されないのではないかと考えられるがちだが、じつはそうではないらしい。私の友人でパリを拠点に国際的に活躍する韓国人美術家が断言するのに、ヨーロッパの知識人に説明なしに理解される日本の芸術が少なくとも二つあって、その二つとは能と俳句だという。なるほど能が月光の舞台だとすると、月光は万国共通であり、そこで取り上げられる死生の問題も人類共通だ。

俳句についていえば、俳句に不可欠の季語の代表である月・雪・花の筆頭は月。芭蕉の月の名句「名月や湖水に浮ぶ七小町」などは、それじたい俳句の形をとった月光の舞台と言えないだろうか。

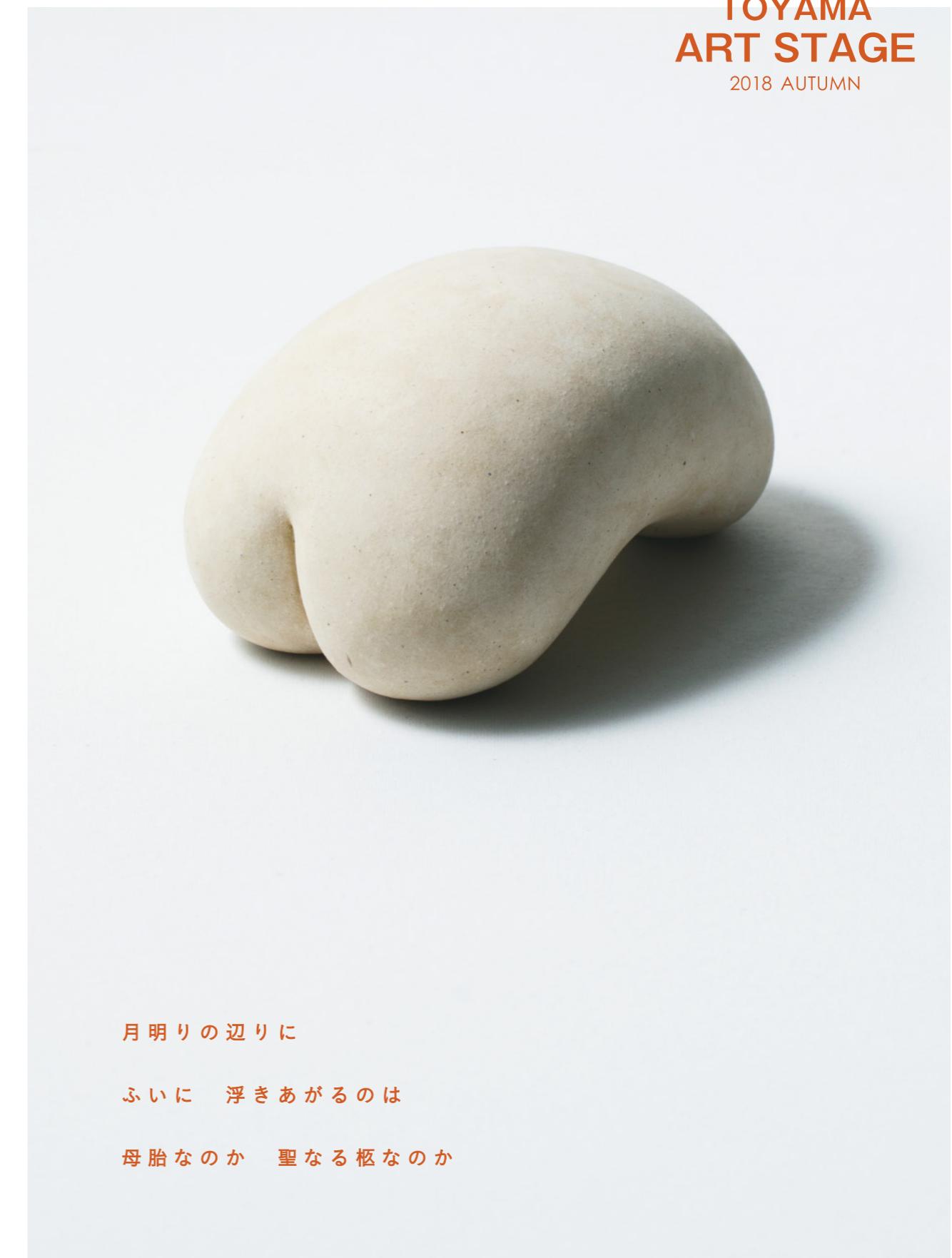
文：高橋睦郎

Object 2016

野村瑞穂 Mizuho Nomura : 陶芸家。1966年 富山県生まれ。1990年 朝日陶芸展 新人陶芸賞受賞。1995年 富山県上市町に工房をもつ。2015年「Objects」富山市陶芸館、2017年「至高の精神展」砺波市美術館など展覧会、個展、グループ展に多数参加。陶工房 野村主宰 <http://mizmonta.web.fc2.com>



高橋 睦郎 Mutsuo Takahashi : 1937年福岡県生まれ。現代日本を代表する詩人の一人。現代詩、俳句、短歌、小説、新作能、オペラなど多彩な分野で創作活動を続ける。1982年『王国の構造』藤村記念歴程賞、1988年『稽古飲食』読売文学賞、『兎の庭』高見順賞、1993年『旅の絵』現代詩花椿賞、1996年『姉の島』詩歌文学館賞、2000年度 紫綬褒章、2007年 織部賞、2010年『永遠まで』現代詩人賞、2012年度 旭日小綬章、2015年度 現代俳句大賞、2017年『十年』蛇笏賞、俳句四季大賞など受賞。文化功労者、日本芸術院会員。





ニュージーランド響首席客演指揮者、大阪フィル首席指揮者、新日本フィル、京都市響、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督を歴任。2016年渡邊暁雄基金特別賞、東燃ゼネラル音楽賞、2018年大阪文化賞、大阪文化祭賞、音楽クリティック・クラブ賞など受賞。自宅にアヒルを飼っている。
<http://www.michiyoshi-inoue.com>

総監督・指揮



演出・振付

井上道義×森山開次 二人の異才が放つ、 ドン・ジョヴァンニ！

2015年、井上道義総監督の下、全国10都市14公演を全国共同制作したオペラ『フィガロの結婚』に続いて、この冬、ダ・ポンテ三部作の第2弾『ドン・ジョヴァンニ』が上演される。演出にはコンテンポラリー・ダンスを皮切りに、演劇、ミュージカルと幅広く活躍するダンサー・振付家の森山開次。井上と森山の強力タッグで、どのような舞台が誕生するのだろうか？

取材・文 高橋彩子

—今回の企画が実現した経緯を教えてください。

森山：僕はマエストロが音楽監督をなさっていた石川県立音楽堂の、邦楽ホールのほうで、作品を作るプロジェクトを5～6回やっていました、そこでマエストロと出会いました。

井上：演出なり振付なり、実験的なことをやる際にはハッタリで行っちゃう人も多い中、森山さんの仕事ぶりには、嘘がなかった。参加者全員にとてもわかり易く説明して、皆がついて

あえて、森山開次自身に踊らせないのは。

来る状況を作っていたんです。僕は野田（秀樹）さんと『フィガロの結婚』を上演しましたが、ジジイだから、成功が想像できるものをやるより、ヴァンパイアのように若い血を吸って先に進みたい（笑）。それで、『ドン・ジョヴァンニ』を誰とやろうかという時、冒険したいと思いついたのが森山さんでした。

森山：僕にとって、舞台の世界で最初に勉強したのが、音楽座ミュージカル『マドモアゼル・モーツアルト』。1年間、モーツアルトのオペラを学びながらドン・ジョヴァンニを踊る精霊役として舞台に立っていたので、すごく縁を感じます。これまで近くで見守っていた井上さんと、今度は稽古場で、同じものを見て一緒に進むのが楽しみでなりません。

井上：僕自身、踊りを音楽より先に経験していた人間だから分かるんだけど、彼は本当は踊りたいはず。でも今回の僕の役割は、彼を踊らせないこと。アンビヴァレントな（相反する感情が入り交じる）役目です（笑）。

踊りを通して、多様な解釈ができる舞台を。

森山：確かに、踊らないことは僕には大きなチャレンジ。曲を聴いて身体に入れ、自分が踊りたくなるだけではなく、オーディションで選んだ10人の女性ダンサー達の存在を活かして、作品全体を豊かにしたいですね。

—チラシのヴィジュアルがとても印象的ですが、演出のイメージはどういう？

森山：チラシには女性の胎内のイメージを込めました。胎内にドン・ジョヴァンニがいて、登場人物の女性3人、ドンナ・アンナとドンナ・エルヴィーラとツェルリーナがそれを見下ろしている。この3人をしっかりフィーチャーしたいと考えています。

井上：この作品の真の主役は女性3人です。女性は誰でも、若い時ならツェルリーナ、25～30歳くらいならアンナ、もう少し行くとエルヴィーラのような部分を持っている。「私は……」という視点で観てもらえることでしょう。そして女性ダンサー達は、ドン・ジョヴァンニの内面も表すだろうけれど、何よりも女性達の内面を表現してくれるはずです。だって、それこそが、ドン・ジョヴァンニを地獄に落とすのだから。

—そうしたドラマを、男性であるお二人が作られるのも興味深いです。

森山：僕にとって、女性は永遠の謎。だからこそ興味をそそらし、女性を描くことで、女性に相対したドン・ジョヴァンニが、色男というだけでなく赤子のように見えるといったような、これまでと違うドン・ジョヴァンニ像を造形できたらと考えています。基本的に、僕は物事をダブルミーニング（二重定義）でとらえたいので、地獄落ちにしても、もしかしたら生きるとか生まれ落ちるとか、そういうことに繋がるかもしれないと思う。マエストロはよく、ストーリーや時代設定から飛躍し過ぎる演出はいかがなものかとおっしゃいますが、ダンスの強みは抽象的な部分を担い、お客様に多様な解釈の余地を与えられること。ダンスが添え物になるのは不本意なので、クリエイションの過程では時にマエストロに食い下がっていただきたいですね。

井上：あはは。森山さんは今後どんどん良くなるし、長生きするでしょうから、これを機会にこの世界をどんどん広げていってほしいです。

—今回は、歌手の皆さんも踊るかもしれないとか？

井上：そうです。オーディションをして、ちゃんと動ける人を採用しました。

森山：だから可能性が広がりますよね。いわゆるダンスというより身体表現といった意味で、歌う身体も音楽に乗せて表現する身体も、チョイスとして持って、演出に臨みます。

—全編日本語上演という点も注目されます。

井上：イタリア語を解さない森山さんに縦横無尽に演出をしてもらうには、やはり日本語がいいだろう、と。僕はレチタティボだけ日本語にする試みを含め、40年前から少しづつ日本語上演にチャレンジしてきました。日本語でオペラをやるという、日本ではどうしても二流意識を抱かれてしまうけれど、モーツアルト自身、イタリア・オペラだけでなく、ドイツ語の『後宮からの逃走』や『魔笛』を書きましたし、もう少し後にはベートーベンがドイツ語で『フィデリオ』を作った。今も、ベルリン・コミッショ・オーパーやウィーンのフォルクスオーパー、イングリッシュ・ナショナル・オペラでは、様々な作品を母国語で上演しています。だから、もっとどんどん日本語でオペラを上演すればいいと僕は思うですよ。ただ、日本語は平面的な言語で、音の強弱ではなく高低でしかアクセントが変わらないから、オペラには難しいのは事実だし、日本人作曲のオペラの中には言葉が聞き取りにくくて観客のストレスになるものも多いので、毎晩頭を悩ませながら、良い言葉を探しているところです。

日本語による、新しいオペラの創造へ。

—ドン・ジョヴァンニ役はロシア人のヴィタリ・ユシュマノフさん、騎士長役はウクライナ人のデニス・ビュニャさんです。

森山：お二人とも、日本語がとても上手な方ですよ。

井上：日本人がイタリア語のオペラをやるのと同じで、彼らは大変ですが、日本に海外の方がたくさん入ってきている現代ならではの表現になるでしょう。つまり今回は、“演出を踊りの方がやる”“日本語のオペラをやる”“ロシア人やウクライナ人が出演する”という3つの挑戦がある。お客様も一緒にになって心の中で踊ってほしいし、一緒に日本語の良さと欠点、日本人の良いところとそうでないところを感じてほしい。長い間、日本はクラシックに対して受け身だったけれど、森山さんのような人が身体的に演出することで、面白い結果になるだろうし、今回だけでなく、先へ繋げることができる試みだと思います。

森山：音楽と踊りは既に出会っているのだと思いますが、チラシに「オペラ×ダンスの邂逅」とあるように、この機会に大いに出会い直し、マエストロから多くを学びながら、自分なりの表現をしていきたいですね。



DON GIOVANNI



Kaiji Moriyama

女性は永遠の謎。
これまでと違うドン・ジョヴァンニをお見せします。

Michiyoshi Inoue

日本語上演をあえておこない、言葉と音楽で皆さん的心を狙い撃つ！

Production File

富山でも動き出す! “Giovanni Ensemble Toyama”

昨今では身体表現を取り込んだオペラ演出は珍しくないが、その可能性の追求に果ては無い、と語る森山開次。目指すのは、至極の“踊るオペラ”。その演出にあたり、3月には女性ダンサーのオーディションを実施。女性の多面性を表現するため、キャラクターも経験も異なる10名を決定した。8月には富山で合唱メンバー「コーラスアクリー」のオーディションを開催。あえて「コーラスアクリー」という造語で募集したのは、一筋縄ではいかないであろう森山の要望を叶える人材が必要だからだ。

オーディションでは、与えられた日本歌曲の課題曲をひとりずつ歌唱。その後、オペラでは異例とも言える振付審査へ進む。正確に踊れるかということよりも、表現力を試された。審査を通過した顔ぶれをみると、コンテンポラリーダンス経験者が多くを占める。参加者は富山在住にとどまらず大阪、神奈川、愛知などから35名が受験し、合格者は20名に絞られた。9月からはじまった稽古では、井上道義の現場指示にも対応できるよう、発声を含めた基礎力アップに重点が置かれている。

一方、井上と森山が揃ってのミーティングでは、ブラッシュアップを重ねてチーム全体で演出コンセプトが共有されていく。とりわけ今回驚かされるのは、女性の胎内がモチーフの真っ赤に染められた舞台セット。ダンサーたちの衣裳も赤い。女が主役の「ドン・ジョヴァンニ」。これまで描かれてきた、世紀の「色男」の物語とは全く異なるものになりそうだ。



公演をもっと楽しむために

公演の前に見てはいかが!?
ドン・ジョヴァンニとモーツアルトをめぐる
映画2本をご紹介します!



ドン・ジョヴァンニ 天才劇作家とモーツアルトの出会い

スペインの巨匠カルロス・サウラ監督が新解釈で臨んだ、オペラ「ドン・ジョヴァンニ」誕生の物語。モーツアルトと、劇作家ロレンツォ・ダ・ポンテの奇跡の出会いを描く。(2009年製作)



プラハのモーツアルト 誘惑のマスカレード

異才ジョン・スティーヴンソン監督が描く、もうひとつのアマデウス。モーツアルトがプラハで「ドン・ジョヴァンニ」を初演したというエピソードから着想して、愛と嫉妬、陰謀にまみれた三角関係を描いた愛憎劇。(2016年製作)

公演情報

モーツアルト歌劇 ドン・ジョヴァンニ全幕(日本語上演)

◆日時: 2019年1月20日(日) 14:00開演(13:15開場)

◆会場: オーバード・ホール

◆出演:

ドン・ジョヴァンニ: ウィタリ・ユシマノフ / レボレッロ: 三戸大久
ドンナ・アンナ: 高橋絵理 / 騎士長: デニス・ビシュニヤ
ドンナ・エルヴィーラ: 鶯尾麻衣 / ドン・オッターヴィオ: 金山京介
ツェルリーナ: 小林沙羅 / マゼット: 近藤圭
ダンサー: 浅沼圭、碓井菜央、梶田留以、庄野早洋子、中村里彩、引間文佳、水谷彩乃、南帆乃佳、山本晴美、脇坂優海香
管弦楽: オーケストラ・アンサンブル金沢
合唱: Giovanni Ensemble Toyama

◆チケット: [全席指定・税込] S席 10,000円 A席 8,000円
B席 6,000円 C席 4,000円 U25 2,000円

※U25は当日の空席よりお席をご案内します。※未就学児童のご入場はご遠慮ください。
※やむを得ない理由により出演者等変更の可能性がございます。

◆プレイガイド: アスネットカウンターほか

※チケットのお求めはPII「チケット購入方法」をご覧ください。

◆あらすじ、相関図など詳細はこちらをご覧ください。

「ドン・ジョヴァンニ」特集サイト [\[検索\] オーバード・ホール](#)

Pick up
ピックアップ

♪ ウィークエンド・コンサート ♪

毎年秋から冬の週末に、富山市内各地区で開催している入場無料の出張コンサート。「アウトリーチ」という言葉もなかった昭和59年にはじまり、今年で34年目を迎える。オーバード・ホールの役割は地域とアーティストを繋ぐこと。開催希望地区を募る一方、出演アーティストを公募して、両者をマッチングする。公民館や地域のみなさん、富山の演奏家と一緒につくりあげるコンサートは笑顔に溢れ、地域交流の場にもなっています。

アウトリーチって何?
Outreach=手を差し延べること、Reach Out=手を伸ばす、という意味。劇場を飛び出して、日頃公演へ足を運ぶ機会の少ない方に音楽を届けます。

コンサートに密着レポート!

ウィークエンド・コンサート vol.7

日時: 2018年10月12日(金) 19:00開演
会場: 西田地方公民館 出演: クリストント

10月12日の会場は 西田地方公民館。	準備 10:00~	公民館職員お手製の チラシとポスターで宣伝!	手際よく椅子を並べる、 自治振興会副会長の河本さん。	看板も手作り。 墨で書かれた林さんの力作!	出演者の控え室の準備も。
開場 18:30~	お客様が続々と公民館へ。 この日は約70人が来場!	配布するプログラムも お手製。	公民館館長の串田さん、 マイクチェック!	リハ 16:30~	出演者が会場入りし、 リハーサルがはじまる。
開演 19:00~	「オーラ・ソレ・ミオ」で幕明け、 歌い手たちの個性あふれるパフォーマンスに客席が沸く。 「ふるさと」「ユー・レイズ・ミー・アップ」など 幅広いプログラムで、会場は熱気いっぱい。	お客様と出演者の距離が、 とても近い!	お客様と出演者の距離が、 とても近い!	最後は全員で大合唱。拍手でカーテンコール!	軽食や飲み物を用意。 あたたかな心配りを感じる。
	「良かった～楽しかった～。ありがとう!」「また来年もやってほしい」「最高だった!」 「鳥肌が立った!すごかった!」と、たくさんのコメントと、たくさんの笑顔をいただきました。				

「楽しい！」
が聞こえる
から。

公民館職員
コンサート担当の林恵子さん



出演者「クリストント」
代表の野上聰子さん



オーバード・ホール
担当スタッフの長澤慎治

小さな会場は出演者との距離が近く、会場全体が一体感に包まれる。この一体感こそが、ウィークエンド・コンサートの醍醐味。公民館、地域の方、出演者、劇場の共同作業ですが、共通するのは「音楽で豊かな時間をお届けしたい」という想い。「楽しい」と思っていただくことが、私たちの喜びです。

今後の開催スケジュール

vol.	開催日	開演	会場	出演	ジャンル
vol.11	11月16日(金)	19:00	草島公民館	富山同調会	声楽アンサンブル、器楽
vol.12	11月17日(土)	14:00	大沢生涯学習センターホール	ぽんぽんアンサンブルソサエティー	吹奏楽
vol.13	11月22日(木)	19:00	ハイビジョンシアター(オーバード・ホールIF)	桐朋アカデミー・アンサンブル	弦楽アンサンブル
vol.14	11月25日(日)	14:00	光陽公民館 大ホール	フルートアンサンブルemu	フルートアンサンブル

※スケジュールは変更の可能性がありますので、ご了承ください。

ニューイヤーコンサート New Year Concert 2019

ウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・
オーケストラ

本物の響きから、新年の幕が開く。

ニューイヤーコンサートに寄せて

横坂 康彦

(新潟大学教授、音楽学・音楽マネジメント)

はじめに

〈歓喜に寄す〉のメロディが小刻みに何度もくり返されて熱を帯び、頂点に達して終わると、パーン！というクラッカーチ音と共に紙ふぶきが舞った。元日の午前零時。ホールを埋め尽くした聴衆は、にこやかに新年のあいさつを交わす。

これは、あるニューイヤーコンサートのひと幕で、ベートーベンの第九交響曲で新年を迎えるカウントダウンの粋な演出である。このように、最近はさまざまなスタイルのニューイヤーコンサートが行われるようになった。オーバード・ホールでも、オーケストラとサーカスの驚きのコラボレーション(シルク・ドゥラ・シンフォニー)が2018年の幕開けを飾り、ユニークな食のインスタレーションが華を添えた。五感に訴える新鮮な体験は、今までクラシックに親しみのなかった人達にとっても気軽に劇場へ足を運ぶ良い機会になったのではないだろうか。



シュトラウス家の音楽とニューイヤーコンサート

さて、元祖ニューイヤーコンサートといえば、もちろんウィーン。その原形は、ウィーンフィルにおいて1939年に始められた。精緻なアンサンブルに加え、柔らかく、まろやかな響きを身上とするウィーンフィルは、時に「黄金のサウンド」と呼ばれたりする。世界中のオーケストラが機能性を求めるあまりそれぞ

れの特色が薄れつつあるなか、ウィーン伝統の響きに固執し続ける数少ないオーケストラの一つである。その最初のニューイヤーコンサートから現在に至るまで、演奏曲目の中心を占めるのはワルツやポルカなど、19世紀社会の変動と共にクローズアップされた大衆的で親しみやすい音楽である。とりわけワルツは庶民の踊りの音楽として当初省みられなかったが、後に芸術性の高い音楽へと変えられていった。その立役者がシュトラウス一家である。

ヨハン・シュトラウスⅠ(1804～49)はウィーンの酒場付き宿屋の息子として生まれ、10代からヴァイオリン奏者として舞踏曲などを演奏する楽団で活躍し、後に作曲も手がけるようになった。20代になってまもなく自作のワルツが評価されると一躍社交界の寵児となり、その演奏活動は国境を超えるようになった。〈ラデツキー行進曲〉の作曲者と言えば、すぐに思い浮かぶ人も多いことだろう。

その長男であるシュトラウスⅡ(1825～99)は、父親の反対をよそに秘密でヴァイオリンを始め、1844年に楽団を結成して華々しくデビューし、演奏・作曲の両面で誰をも唸らせる才能を発揮した。その名声はヨーロッパ中に響き渡り、遠くロシアやアメリカにも遠征して国際親善をもたらすようになる。〈美しく青きドナウ〉などのワルツはもちろん、ワルツの手法を生かしたオペレッタ〈こうもり〉でも成功を収めている。

ウィーンで芽生えた一地方の舞踏音楽は、シュトラウス一家によって、一曲のなかに幾重にも独立したワルツが盛り込まれる独創的な構成や夢見るようなメロディとハーモニー、そして3拍子のリズムを微妙にずらす独特な優雅さなどを備え、洗練されたウィンナ・ワルツへと完成していく。



ニューイヤーコンサート2019に向けて

2019年のオーバード・ホールは、まさにその「ウィーンを代表するオーケストラ」と折り紙をつけられたウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラの演奏で幕を開ける。2000年には、演奏家なら誰もが憧れるコンツェルトハウスでのニューイヤーコンサートに出演して大成功を収めた彼らは、ウィーン音楽の伝統を守り抜く屈指のアンサンブルとして定評を得た。

シュトラウス家の伝統に則ってヴァイオリンを弾きながら指揮するペーター・グートのもと、しっかりとウィーン情緒を奏でるかと思えば、一転してスピード感溢れる胸のすくようなアンサンブルを聴かせる。貴族社会に巻き込まれたさまざまな人間模様を生き生きと描写する〈こうもり〉序曲に始まり、〈ウィーンの森の物語〉や〈トリッヂ・トラッヂ・ポルカ〉などシュトラウスⅡの作品がプログラムの多くを飾る。なんとも楽しみなことである。

加えて、ラトヴィアに生まれ、ウィーンで学んで数々のオペレッタやミュージカルなどで幅広いレパートリーを誇るソプラノのアネット・リーピナが、オペレッタから聴かせどころのアリアや二重唱を歌う。共演者のバス・バリトン平野和は2007年にウィーン国立音大音楽院オペラ科を首席で卒業した俊英で、グラーツ歌劇場やウィーン・フォルクスオーパーを中心にキャリアを重ね、ザルツブルク音楽祭やブレゲンツ音楽祭にも出演している。その他、楽友協会での〈ドイツ・レクイエム〉のソロ

など、深々とした美声でコンサート歌手としても活躍している。〈ジプシー男爵〉やレハールの〈メリー・ウィドウ〉などで息の合った歌唱を聴かせてくれることだろう。

Program

ヨハン・シュトラウスⅡ

- 喜歌劇「こうもり」序曲
- ポルカ・シュネル「浮気心」♦
- 喜歌劇「ジプシー男爵」より《読み書きは苦手》♣
- ワルツ「ウィーンの森の物語」
- トリッヂ・トラッヂ・ポルカ
- 喜歌劇「ウィーン気質」から二重唱
《これがなくちゃあ許せない》♥♣
- ポルカ・シュネル「狩り」♦
- ワルツ「美しく青きドナウ」♦

フランツ・レハール

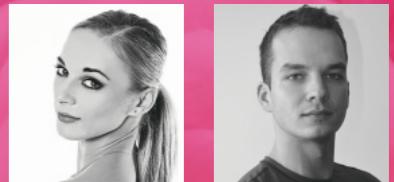
- 喜歌劇「ジュディッタ」より《熱き口づけ》♥
- 喜歌劇「メリー・ウィドウ」より《唇は語らずとも》♥♣
- ほか

ペーター・グート
(指揮・ヴァイオリン) アネット・リーピナ
(ソプラノ) 平野 和(やすし)
(バス・バリトン)



photography Nancy Horowitz © Claudia Prieber

ロミナ・コウォジエイ
(ダンサー) ダミアン・シムコ
(ダンサー)



二人のダンサーと、華やかな歌の共演に魅了されるひと時。

公演情報

平成30年度富山県企業メセナ文化ホール事業
特別協賛 学校法人 片山学園

ニューイヤーコンサート2019 「ウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラ」

◆日時：2019年1月5日(土) 15:00 開演(14:00 開場)

◆会場：オーバード・ホール

◆チケット：[全席指定・税込]

S席6,000円、A席4,000円、学生券2,000円(大学生以下)

*学生券は当日の空席よりお席をご案内します。※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

プレイガイド：アスネットカウンターほか

★チケットのお求めはPII「チケット購入方法」をご覧ください。

*出演者、曲目等は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

写真 1. 「ニューイヤーコンサート2018 シルク・ドゥラ・シンフォニー」公演風景
2. 「風景と食」設計室 ポーによるフード(ニューイヤーコンサート2018より)
3. ウィーン市立公演のヨハン・シュトラウス記念像
4. ウィーン・コンツェルトハウスでの演奏会の様子

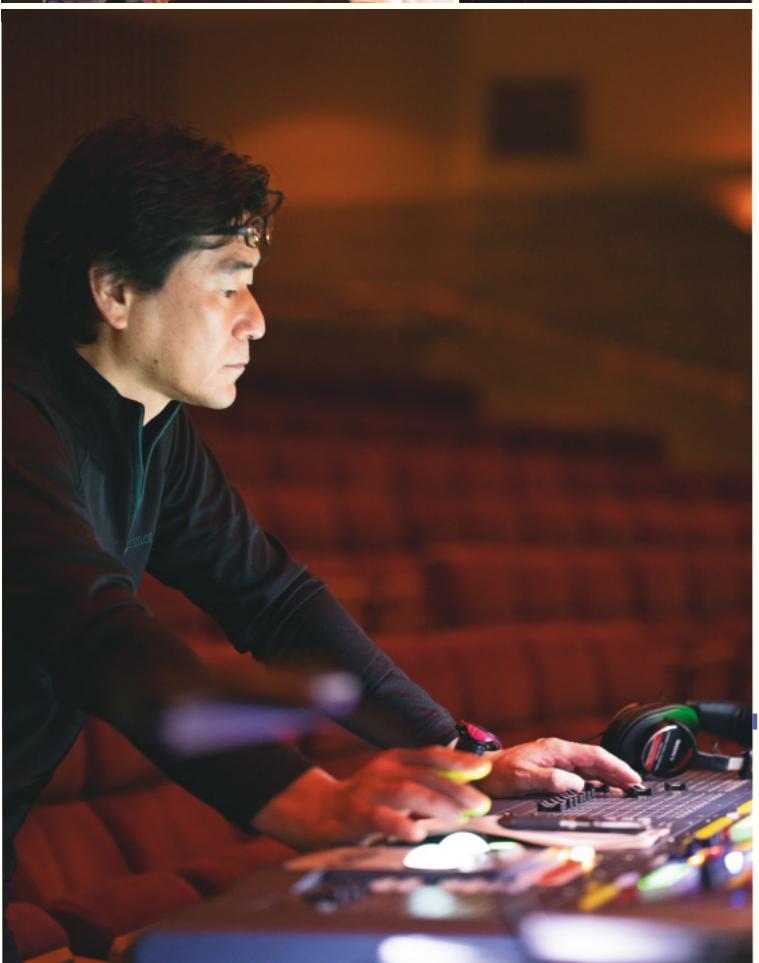
プロフェッショナル

劇場を支えるプロフェッショナルをご紹介していきます。

Professional



その音が、心に響くために。



企画から制作、上演までおこなうオーバード・ホールの自主制作公演。たとえば演劇であれば、風や雨の効果音に、役者の心情の変化や物語の新たな展開を予感させるだろう。そんな効果音や音楽を使って演出家の意図をさりげなく伝えるのが音響を担当している曾根朗である。

一流のプロから吸収できる環境。

オーバード・ホールは、外部から一流のプロが集まる劇場だ。22年間音響を担当してきた曾根は、そのような人達と積極的に関わることで、自らの引き出しを増やしてきた。ある作品で音響操作を担当した際、演劇界の第一線で活躍する音響プランナーから「お客様の心に風を吹かせて」と指示を受けた。台本の行間を読み、いかに空気感を伝えられるか。風の効果音の出し方を叩き込まれた経験は、その後の仕事で何度も思い返すことになった。

表現者の力を100%発揮する。

効果音や音楽を操ることはもちろんだが、曾根にとって音響とは「空間づくり」という意識が強い。出演者がステージで良いパフォーマンスができる環境をつくりたい、表現者の頭の中で鳴っているイメージ通りになるよう構築したい。とりわけ、マイクやスピーカーの存在が感じられない舞台ほど神経を使う。終演後には「いい音、いい音響だった」ではなく、「いい公演だった」と観客から言われることを曾根は何よりも重視している。

作家活動が、音の幅を広げる。

劇場を支える職員として、音響プランを手掛ける機会は多くはない。そんな環境に危機感が募り、劇場以外の分野にも関わるようになった曾根は「サウンド・インスタレーション」作家としての顔も持つ。聴く人の記憶の底にある風景を呼び起こし、耳を澄ませてこそ広がる音の面白さを伝える。そんな経験を通して自らの音作りも変化してきた。作家活動は、確実に劇場での仕事に活かされているのだ。努力が功を奏し、過去に一緒に仕事をした世界的な作曲家・原田敬子氏からサントリーホールでの音響協力を依頼された。日本最高峰の劇場で音響を務めたとき、自分がやってきたことは間違いではなかったと強く思った。

「日常のなかに音選びのヒントがある」と、今日も心に響く音を求める、静かに耳を澄ます。

曾根朗(そねあきら)：1968年生まれ。1990年ケーネビーアニメーション(現KNB.E)に入社し、技術および制作として多くのテレビラジオ番組制作に携わる。1996年オーバード・ホール起ち上げに合わせて(公財)富山市民文化事業団に転身。音響を担当し、自主制作公演に音響プラン、オペレーターとして参加。主な作品に「億光年の響き」、オペラ「アイーダ」、「木に花咲く」、名作ミュージカル上演シリーズ等で音響プランを務めた。

オーバード・ホール
音響
曾根朗

11/15 2019 2/21
市民のためのランチタイム
ジョイフルコンサート

- ◆時間=11:50～12:50
- ◆会場=富山市民プラザ アトリウム
- Vol.60** 11/15(木)
出演=平永里恵(マリンバ)、吉田祐介(サクソフォン)、廣瀬鏡絵(ピアノ)
- Vol.61** 2/21(木)
出演=宮尾安紀子(オーボエ)、安田菜々子(クラリネット)、増田遼奈(ファゴット)、村橋郁香(ホルン)、緒方里珠(フルート)



入場無料

11/23・24・25
おもしろい女

- 藤山直美が演じる天才漫才師の熱い生涯！
- ◆出演=藤山直美、渡辺いっけい、山本陽子、田山涼成、正司花江ほか
 - ◆開演=各日14:00
 - ◆会場=オーバード・ホール
 - ◆料金=[全席指定・税込]
S席 8,800円 完売 A席 7,800円
U25 3,500円



好評発売中

12/8
宝塚歌劇花組 富山公演

- 宝塚の中でも最も伝統のある花組、待望の富山公演！
- ◆出演=柚香光ほか
 - ◆開演=14:00 / 18:00
 - ◆会場=オーバード・ホール
 - ◆料金=[全席指定・税込]
S席 7,300円 A席 5,500円 完売
B席 3,500円(残りわずか)



好評発売中

12/24
第九交響曲“歓喜の夕べ”2018

- 一年を締めくくる歓喜の歌声。
- ◆指揮=飯森範親 管弦楽=東京交響楽団
ソリスト=盛田麻央(ソプラノ)、石井藍(アルト)、望月哲也(テノール)、萩原潤(バリトン)
合唱=富山県合唱連盟「第九」合唱団
 - ◆開演=16:00
 - ◆会場=オーバード・ホール
 - ◆料金=[一部指定席・税込]
S席 5,500円 A席 5,000円(全席指定) B席 3,500円(5階自由席)



好評発売中

3/21
東京バレエ団初演「海賊」プロローグ付全3幕

- バレエの大作「海賊」がオーバード・ホールに登場！
- ◆出演=沖香菜子、秋元康臣、池本祥真ほか
振付=アンナ=マリー・ホームズ
音楽=アドルフ・アダン、リックカルド・ドリゴほか
演奏=関西フィルハーモニー管弦楽団
 - ◆開演=15:00 ◆会場=オーバード・ホール
 - ◆料金=[全席指定・税込]
S席 10,000円 A席 8,000円 B席 6,000円
C席 4,000円 U25 3,000円(限定50枚)

会員先行発売日:12月1日(土)のみ
一般発売日:12月9日(日)～

U25 25歳以下対象の座席引換券。座席はお選びいただけません。公演当日、当日券窓口で身分証明書を提示の上、入場券をお引換ください。
U25 25歳以下対象の座席指定券。公演当日、入場の際に身分証明書の提示が必要です。

※情報は2018年10月20日現在のものです。変更になる場合がありますのでご了承ください。詳細・最新情報はHPをご覧ください。未就学児童のご入場については、各公演で異なります。

チケット
購入方法

アスネットカウンターで
お買い求めください。

インターネット

アスネットオンラインチケット
www.aubade.or.jp 24時間受付

※ご利用の際には会員登録が必要です。

電話予約

アスネットカウンター(オーバード・ホール1F)
TEL. 076-445-5511 10:00～18:00

定休日:年末年始(12月29日～1月3日)
毎週月曜(月曜が祝日の場合、翌平日)

窓口販売



©Hidemi Seto

好評発売中

11/20
熊川哲也 Kバレエカンパニー
「ドン・キホーテ～Don Quixote～」

- ◆出演=小林美奈、山本雅也ほか
- ◆開演=18:30
- ◆会場=オーバード・ホール
- ◆料金=[全席指定・税込]
S席 15,000円 A席 11,000円
B席 8,000円 C席 5,000円



©Akira Muto

好評発売中

11/30
AUBADE HALL Presents
CHIKO LIVE in プラネタリウム

- 満天の星や風景、ダイナミックかつ繊細な歌声と演奏に身をゆだねるひと時。
- ◆出演=CHIKO(Vo)、B.B.モフラン(Vo,Key,Perc)、ヤマダベン(Perc)、廣井謙次(Gt)
 - ◆開演=19:00
 - ◆会場=富山市科学博物館 プラネタリウム
 - ◆料金=[全席自由・税込]
一般 2,000円 ジュニア券 1,000円 完売



完売しました

12/20
AUBADE HALL Presents
音楽入門講座 作曲家「加藤昌則」が誘う、劇場型クラシック鑑賞術！第5回「コンサート鑑賞術2」

- 大人気シリーズの最終回は、2人のピアニストによるレクチャー付きスペシャルコンサート！
- ◆出演=加藤昌則、ゲスト=宮谷理香(ピアノ)
 - ◆開演=19:00
 - ◆会場=オーバード・ホール
 - ◆料金=[全席自由・税込]
一般 2,000円 学生(大学生以下) 1,000円



好評発売中

©Akira Muto

2019
3/1
キテレツメンタルワールド
東京ゲゲゲイ歌劇団 Vol.III「黒猫ホテル」

- ダンスと音楽を駆使し、オリジナル表現を切り拓く東京ゲゲゲイの最新作公演！
- ◆振付・出演=東京ゲゲゲイ
音楽=MIKEY／安宅秀紀
 - ◆開演=19:00
 - ◆会場=オーバード・ホール
 - ◆料金=[全席自由・税込]
一般 5,500円 U25 4,500円



好評発売中

3/31
ミュージカル「キューティ・ブロンド」

- あのキュートでハッピーMAXなミュージカルが待望の富山初公演！
- ◆出演=神田沙也加、平方元基、植原卓也、樹里咲穂、新田恵海、木村花代、長谷川初範ほか
 - ◆開演=13:00
 - ◆会場=オーバード・ホール
 - ◆料金=[全席指定・税込]
S席 9,800円 A席 8,800円 U25 6,800円



好評発売中

AUBADE HALL calendar 2018.11~2019.1



11	11 日	富山シティバレエ団・金沢シティバレエ団 バレエコンサート2018 【開演】14:00	【問】富山新聞文化センター 富山シティバレエ団	0766-26-7000
	18 日	桐朋アカデミー・オーケストラ 第57回定期演奏会 【開演】14:00	【問】桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務部教学課	076-434-6800 アスネット
	20 火	熊川哲也 Kバレエカンパニー「ドン・キホーテ～Don Quixote～」 【開演】18:30	【問】富山新聞社営業事業部	076-491-8118 アスネット
	23 金・祝 25 木・祝	おもろい女 【開演】各日14:00	【問】北日本新聞社事業部	076-445-3355 アスネット
12	2 日	オペレッタ「こうもり」《全3幕/日本語上演》 【開演】14:00	【問】(-社)富山県芸術文化協会内 とやま舞台芸術祭実行委員会事務局	076-441-8635 (内線123) アスネット
	4 火	梅沢富美男・研ナオコ アツ!とおどろく夢芝居 【開演】14:00 / 18:00	【問】富山公演事務局	076-224-5144 アスネット
	5 水	キエフ・バレエ くるみ割り人形 【開演】18:30	【問】富山テレビ放送事業部	076-492-7106 アスネット
	8 土	宝塚歌劇花組 富山公演 【開演】14:00 / 18:00	【問】イッセイプランニング	076-444-6666 アスネット
	15 土	富山県立富山商業高等学校吹奏楽部 ホットコンサート2018 【開演】18:00	【問】富山県立富山商業高等学校	076-441-3438
	20 木	AUBADE HALL Presents 音楽入門講座 作曲家「加藤昌則」が誘う、劇場型クラシック鑑賞術！第5回「コンサート鑑賞術2」 【開演】19:00	【問】富山市民文化事業団 総務企画課	076-445-5610 アスネット
	22 土	KNBクリスマススペシャル スーパー戦隊スーパーライブ2018 【開演】11:00 / 14:00	【問】北日本放送事業局	076-432-5555
	24 月・振	第九交響曲“歓喜の夕べ”2018 【開演】16:00	【問】北日本新聞社事業部	076-445-3355 アスネット
	26 水	富山県立富山工業高等学校吹奏楽部 第55回定期演奏会 【開演】18:00	【問】富山県立富山工業高等学校	076-441-1971 (加藤) アスネット
1	5 土	ニューイヤーコンサート2019「ウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラ」 【開演】15:00	【問】富山市民文化事業団 総務企画課	076-445-5610 アスネット
	12 土	パンチョ・アマート・バンド Japan Tour 【開演】19:00	【問】MIN-ON インフォメーションセンター	03-3226-9999 アスネット
	20 日	モーツアルト歌劇 ドン・ジョヴァンニ 《全幕/日本語上演》 【開演】14:00	【問】富山市民文化事業団 総務企画課	076-445-5610 アスネット

アスネット …アスネットチケット取扱い。お買い求めは、P11「チケット購入方法」をご覧ください。

お得にチケットが買える！

オーバード・ホール会員システム「アスネット会員」募集中！

お得に楽しくシアターライフを満喫するためのオーバード・ホール会員システム。

ご登録いただくと、インターネットで24時間チケットのご予約が可能です。

「アスネット」には、「アスネット会員」「メール会員」2種類の会員システムがあります。

アスネット会員 (年会費: 1,800円)



公演チケットの先行販売



公演チケットの割引販売

10%OFF

※特典1、2については対象外の公演もございます。



Mite Miteや公演情報の送付



会員限定イベントをご案内

メール会員 (年会費: 無料)



公演情報のメールマガ配信

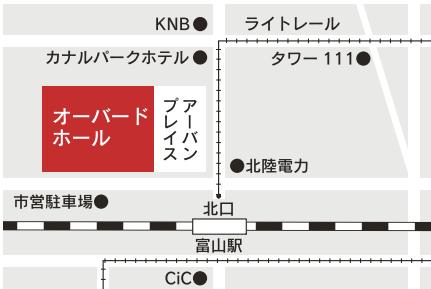
会員登録方法



インターネットからお申込
(オーバード・ホールHPより)



アスネットカウンター窓口でのお申込
(オーバード・ホール1F)



オーバード・ホール(富山市芸術文化ホール)

〒930-0858 富山県富山市牛島町9-28 TEL.076-445-5620

<http://www.aubade.or.jp> オーバード・ホール

交通のご案内

鉄道利用：富山駅下車、北口正面から徒歩2分

航空利用：富山空港よりタクシーで約25分、バスで富山駅まで約30分

お車利用：北陸自動車道 富山I.C.出口から約20分

ミテミテ 2018.autumn号 発行日：2018年11月10日

発行所：公益財団法人 富山市民文化事業団 TEL.076-445-5610

企画・編集：Mite Mite編集室 デザイン：CROSS 表紙写真：今寺学

Mite Mite

vol.58